

協働の森パートナーズ協定

交流活動イベントのレポート

人が森を助ける。
森が人を助ける。



Collaborative Forest Restoration with
Environmentally Progressive Companies.

「環境先進企業との協働の森パートナーズ協定」については、
高知県林業振興・環境部林業環境政策課のHPをご覧ください
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/030101/kyoudounomori.html>

協定企業：株式会社 土佐料理 司 様
開催場所：グリーンパークほどの
（高知県吾川郡いの町清水程野）
「土佐料理 司 鮎を育む森」
開催日：令和元年5月27日（月）
参加者数：27名（土佐料理司様、いの町、
高知中央森林組合、高知県）



清流・仁淀川の支流である枝川川の上流に、株式会社土佐料理司様・いの町・高知中央森林組合・高知県との協定森林があります。この協定は平成20年8月に締結し、以来4期約11年にわたりご協力いただいています。

令和元年5月27日に、第9回となる交流活動が行われました。株式会社土佐料理司の参加者の皆さんは、東京や大阪、高知市内からお越しいただきました。

開会式では、いの町長の池田牧子氏、株式会社土佐料理司代表取締役社長の竹内太一氏、高知中央森林組合代表理事組合長の黒石利武氏から、ご挨拶いただきました。

＜開会式の様子＞



池田牧子いの町長



株式会社土佐料理司 竹内太一代表取締役社長

開会式の後、山に入っていきます。登り口の傾斜がきつく、歩くだけでひと苦勞です。作業するポイントに到着したら、まずは高知中央森林組合の職員の皆さんから、受け口と追い口を作って木を倒す方法の説明を受けました。



いよいよ社員の皆さんによる間伐の時間です。先ほど森林組合の方に習ったように、受け口を作りますが、切れ目を合わせるのは、なかなか難しいです。森林組合の方に切り口を修正してもらいながら、次々と切り倒しました。

若齢の森林で、木が混み合っていたので、切り倒すヒノキの枝が周囲のヒノキに引っかかりやすく、難易度の高い間伐作業でした。



伐倒方向を確認しながら、切り進めていきます。森林組合の方が指導してくれますが、「土佐弁しかしゃべれんきー」と、土佐弁バリバリの指導で、東京や大阪から参加の皆さんの笑いを誘い、和気あいあいと作業しました。



記念に間伐した丸太を薄切りにして持ち帰りました。ヒノキのいい香り！



丸太の薄切りを持ってポーズ！平たい円形のものを持つと、かじりたくなるのは、なぜでしょう…。



昼食は、地元の吾北地区農漁村女性グループ研究会の皆さんの手作りで、竹内社長をはじめ、料理人の社員の皆さんが楽しみにしていました。おいしい田舎料理を堪能した後は、仁淀ブルーで有名な「にこ淵」を見学して、交流活動は終了となりました。協働の森での間伐が、清流・仁淀川の保全につながることでしょう。

また来年もお待ちしています！

人が森を助ける。
森が人を助ける。



Collaborative Forest Restoration with
Environmentally Progressive Companies.